

令和7年度第2回福岡県地域公共交通運転手確保等実行委員会 議事概要

1. 日 時：令和7年12月19日(金) 10:00～11:35

2. 場 所：福岡県中小企業振興センター 301会議室

3. 出席者：福岡県地域公共交通運転手確保等実行委員会委員 16名

九州産業大学理学部教授 稲永健太郎（委員長）

第一交通産業株式会社、福岡交通株式会社、田川構内自動車株式会社

安全タクシー株式会社、西日本鉄道株式会社、堀川バス株式会社、JR九州バス株式会社

一般社団法人福岡県バス協会、一般社団法人福岡県タクシー協会

九州運輸局福岡運輸支局、北九州市、福岡市、嘉麻市、福岡県警察本部、福岡県

4. 議 事

(1) 今年度の取組状況について

○事務局からの説明

・【資料1】に基づき、令和7年度の取組状況について、事務局から説明。

○主な質疑・意見

(委員)

筑豊地区での開催中止や筑後地区の参加者不足について、事業の周知方法を伺いたい。

(事務局)

特設サイト、県ホームページ・各SNS、市町村、交通事業各社の媒体、県内ハローワークでのチラシ配布など、幅広く広報活動を行っている。

(委員)

募集に苦慮している状況であるため、更なる工夫が必要だと考えている。

(委員)

北九州市がハローワークと連携し、体験会後に求職活動の実績となる参加証明書を配布していた事例について、詳細を伺いたい。

(委員)

行政のあらゆる広報媒体を活用し、広報活動は試行錯誤している。体験会を求職活動の実績とし、失業手当申請に活用できるようハローワークと協力した結果、一定の効果があったと認識している。

(委員)

今年度のバス運転体験会等を知ったきっかけについて、説明資料から、魅力発信サイトやSNS、ハローワークなど、どれかに偏りがあるというより、幅広いところから参加があったことが分

かる。タクシー運転体験会も同様の広報を行っているが、参加者が少ないと推測される。バスは「運転体験」が参加のきっかけになっている可能性もある。事業者の説明会における人気のコンテンツについて伺いたい。

(委員)

ハローワークとの連携による求職活動実績への位置付けは、求職者の雇用保険受給に繋がり効果的である。当社の採用実績の30%はハローワーク経由であり、説明会開催時にはハローワークとの協力が望ましい。イベント開催にあたっては、求職者が参加しやすい環境を整えるため、外部機関との協力による広報も重要であると考えている。

(事務局)

県でもハローワークで職員が失業手当認定日に合わせて求職者にチラシを配布した。バス運転体験会にはハローワーク経由で4名ほど参加があったが、タクシー運転体験会では参加者が少ない状況である。タクシー運転体験会のコンテンツとしてアプリ無料配車体験を提供しているが、コンテンツの充実が必要である。その他に参加者に好評な運転体験等のコンテンツがあれば、タクシー事業者から伺いたい。

(委員)

個人的には適性診断は非常に面白いと思う。その他には、無線体験も効果があると考えられる。

(委員)

情報発信などは委託事業者で行われているのか。事業者側で協力できることがあれば声掛けをお願いしたい。

(委員)

参加の最初のきっかけは、バス・タクシー運転手に興味を持つことである。業界のイメージがあまり良くないため、説明会の周知と同時に、運転手の魅力を伝えることが必要だと感じている。

(委員)

参加事業者向けの説明会案内は前倒しで実施してほしい。タクシー運転手は中高年層が多い一方で、今回の説明会は女性・若者・外国人をターゲットとしている。地域特性も大きく、年配の方のイメージが悪く、家族から参加を止められるケースもある。また、ひとり親家庭の参加にはキッズスペースの用意も重要だと考えている。

(委員)

参加者の対象年齢は18歳以上か。

(事務局)

18歳以上の普通免許取得者が対象である。

(委員)

専門学校や大学への周知も一定の効果があると考えられる。

(委員長)

当大学でも多種多様な業種から求人案内があるため、何らかの協力の方法があるかもしれない。

(委員)

どらなび EXPO が 2025 年の 1 月 25 日に初めて福岡で開催された。場所はアクロス福岡で 42 ブース、48 社が参加した。そのうち九州の事業者が 22 社。来場者数が 121 名。

今年度秋には、北海道道庁が地元のバス会社をまとめて参加していた。同様に山口県や佐賀県も移住定住に絡めて参加している。鹿児島県は、事業者の参加に対して補助している。

福岡県内の合同会社説明会、運転体験会等の機会が多いことは、事業者として大変ありがたい。令和 7 年度は協会から事業者に対して参加費補助を出してはいるが、県からの支援があるとありがたい。

(委員)

当社も 2023 年から関東・関西で開催されるどらなび EXPO に出演しており、同じバス運転手専門採用イベントのバスギアエキスポを合わせると 10 回以上出演している。初めて参加した際は、求職者にどのような情報を伝えるべきか、どういった配布物を準備すればいいのか分からぬことも多かったが、他事業者のブースやパンフレットを参考にして次回以降の出演に活かすことができた。

単に求職者の方との接点としてだけでなく、自社の採用活動をより良いものにしていくきっかけにもなる。

(委員長)

説明会に参加したことのない事業者に、他事業者の説明や配布物を見てもらう機会を設けるのも良いのではないか。

(委員)

個々の事業者の体力の問題もある。採用活動に人を割けない事業者もいる。行政側から情報共有などの連携をやっていただきたい。

(委員)

人材紹介会社経由での採用が増えているが、紹介料が高騰している。松山市のように紹介料への補助金があれば、採用に繋がりやすいと考えている。また、採用者の多くが 2 種免許を未取得であるため、取得費用の補助があると助かる。外国人採用については、永住権保持者の場合は日本人採用と変わらないが、特定技能外国人の場合は登録支援機関への委託料や 2 種免許取得費用、寮の整備など先行投資が大きく採用が進まない。

(事務局)

2種免許取得費用は国が補助しており、県での同様の補助制度創設は難しい。今回の外国人雇用支援補助は寮や家電にも活用できるが、具体的な活用事例が示せていないかった。

(委員)

永住権をお持ちの方であれば基本的に日本国籍の方と同様の採用活動が可能なため、特定技能の方をどう採用していくかが課題だと思う。企業としては研修体制や社内制度などを整える必要があり、国の制度ができたからといって直ちに受け入れができるわけではない。また、外国での採用活動や登録支援機関の利用などを考えると、日本人採用よりもコストがかかるため、30万円の補助額では特定技能外国人を積極的に採用していくことは難しいかもしれない。

(事務局)

特定技能での採用が困難であることは認識している。今回の補助制度は就労制限のない永住権保持者も対象としており、特定技能に限らず外国人雇用へのハードルを下げたい意図で創設したが、活用実績に繋がっていない状況である。

(委員)

永住権をお持ちの方の採用であれば、日本人を採用するコストと変わらない。そういう方たちを採用する際に、申請してよいのか二の足を踏んでいるのではないか。採用実績はあると思う。

(2) 次年度に向けた課題の検討について

○事務局からの説明

・【資料2】に基づき、次年度に向けた課題の検討について説明を行った。

○主な質疑・意見

(委員)

バス・タクシー運転手の平均年齢は非常に高く、若年層の採用検討は必須である。高校生へのアプローチは困難なため、まずは高校の進路指導教員へ業界の魅力を伝える機会を設けるべきだと考えている。

(委員)

高校生の採用については、当社も力を入れて取り組んでいる。当初は県内の高校生をターゲットにしていたが、現在は九州・山口エリアまで採用活動を広げており、現在は県外の高校生の採用も増えてきている。関東の同業他社でも九州まで採用活動に来ていると聞いている。高卒採用のルールでは、高校生と事業者の直接接触ができないため接点が持ちにくい。

行政で高校生と接点を持つ機会を作っていただければありがたい。

(委員長)

どの業界も若者の採用に苦労している。福岡で働くということが若者の魅力となるため、私たちにとっては有利に働くのではないかと感じている。

(事務局)

今後の課題として市町村内部での連携が必要であると、先ほど説明を行った。本日の議論で委員から発言のあった、ひとり親で子どもを育てている家庭もある中で、そうした方たちへの就職支援について何らかの施策が必要ではないかという点について、市町村単位でも一人親世帯への就労支援を行っていると思うが、こうした施策との連携、課題について、出席している自治体に伺いたい。

(委員)

本市単独での支援は不明だが、ひとり親世帯向けの就労支援は県社会福祉協議会が取りまとめていると認識している。

(3) 令和7年度九州運輸局交通政策関係表彰の受賞について

○事務局からの説明

- ・事務局から令和7年度九州運輸局交通政策関係表彰の受賞について報告を行った。

(4) その他

○事務局からの説明

- ・事務局から、第3回実行委員会の開催時期について説明を行った。